

## 学長・藤井日静猊下略年譜

明治十二年

十月一日東京神田錦町陸軍御用達薪炭間屋豊後屋に生まれる。

父藤井太郎太、母とめ。幼名三男（みつを）と命名される。

明治二十年

東京車坂尋常高等小学校入学。

明治二十六年

九月望月日謙上人について得度して僧道の第一歩を踏み出す。

俗名三雄を教仁と改名す。

明治二十八年

山梨中檀林に入学。

明治三十一年

東京錦城中学校に転入。

明治三十二年

日露戦役に陸軍兵として出征。

明治三十四年

東京正則英語学校高等部入学。

明治三十八年

山梨県妙太寺住職となる。

明治四十年

祖山大学院を卒業。

明治四十一年

風間幸と結婚。二月六日父太郎太死去。

明治四十二年

山梨県泉能寺住職となる。二月一日長男教雄誕生。

明治四十四年

一月三日長女安子誕生。

大正 元年

山梨仏教会布教師、身延山布教師、免囚保護司。

大正 二年

六月十六日次女よし子誕生。

大正 五年

中山荒行堂に入行。

大正 六年

九月宗門初の映画布教を各地で行い大きな反響を呼ぶ。

一月十日三女静江誕生。

大正 十年

七月十六日次男安国誕生。

大正 十二年

十二月京都満願寺住職となる。

昭和 三年

二月二十五日母とめ死去。

昭和 十一年

日蓮宗専任布教師。

昭和 十二年

身延山法主望月日謙上人のもとで御廟奉行をつとめる。

昭和 十三年

四月身延山執事となる。

昭和 十四年

僧正昇叙。

昭和 十七年

四月東京身延別院主管となる。

昭和 十八年

一月身延山総務代行に就任。

昭和 二十一年

八月総務に就任。

昭和 二十二年

祖山教学財団理事長。

昭和 二十二年

四月信行道場主管に就任。

昭和二十三年

灯明会支部長。

身延山大学校舎建設委員長。

昭和二十四年

総務を辞任。

昭和二十四年

権大僧正昇叙。

昭和二十六年

雑誌「願満」を発行。

昭和二十七年

東京都修法師会々長。

昭和二十九年

富士山麓電鉄社長堀内一雄氏とはかり、全国檀信徒に呼びかけて経ヶ岳常唱堂を復興させる。

昭和三十四年

御真骨奉遷常任委員長。

教仁を日静に改名す。

東京都東部宗務所長に就任。

昭和三十四年

七月身延山第八十六世法主として入山。

身延山短期大学々長に就任。

昭和三十五年

身延山街頭布教隊を組織し各地に派遣すると共に自ら陣頭に立ってこれを指揮す。

昭和三十六年

第一回東京街頭布教を実施。

昭和三十八年

一月三十日第三十八代日蓮宗管長に就任。

第一回日蓮宗護法運動を東京に於いて開催。十二月八日ハワイ真珠湾アリゾナ艦上に於いて追悼法要を営む。

昭和三十九年

教育新潮社より『救国の宗教を生きる』を発売。

四月大阪府磯長叡福寺第十一世座主に就任。

昭和四十年

六月十七日世界連邦世界大会に名誉団長として渡米『道義の実践』を提唱。

大会終了後、北米各地を巡教。

昭和四十一年

私学振興の功勞に依り勲三等瑞宝章を受ける。

東京で米寿祝賀会を開く。

昭和四十二年

十月一日身延山短期大学々園鉄筋五階新校舎並に大講堂完成す。